

新中区配水池新設工事説明会 議事録

日 時 令和6年3月26日(火) 13時30分～

場 所 倶知安町役場 2階会議室

参加者 36名

1 開 会 水道課長

2 挨拶 町 長

本来であれば半年くらい前から動きの変化、当初の計画から変更になった点について丁寧に説明しながら工事に向かうべきだった。

ひらふエリアについては、水道施設の増強は欠かすことができない、そういった重要な施設。この時期に初めての説明となったことを深くお詫びする。

3月13日に観光協会ほか2団体から要望書をもたらった。趣旨的にはこれまで地域と行政が様々な部分で協力しあってコロナを乗り越えてここまでやってきたが、こういったことで関係が崩されるのは遺憾。これから世界に誇れるリゾートを作っていく、そういった思いでいる。そういった意味を含めて一から説明をさせていただく。

本日の説明会1回で理解いただけるとは思っていない。限られた時間ではあるが、最善を尽くしていきたい。4月に入ってからでもニセコひらふ地区において説明会を開催したい。要望をもたらった3団体については意見交換を重ねながら、この地域に必要な水道施設の新設に向けて一步一步進みたい。

3 事業の説明 水道課主幹

水道課の及川と申します。私のほうから新中区配水池新設工事の説明をさせていただきます。すこし長くなりますけどよろしく願いいたします。

お手元の資料をお開き願います。

目次となっております、1開催の趣旨、2 ニセコひらふ地区の水道事業の概要

3 施設新設に至る経緯、4 周辺環境、5 事業計画、6 施設位置、7 完成イメージ

8 施設配置上のメリット・デメリット

9 工事についてのスケジュール案 の構成となっております。

次ページをお開き願います。

開催の趣旨となっております、読み上げさせていただきます。

「倶知安町水道課では、ニセコひらふ地区において上水道の使用水量が急増していることに伴い令和3年度に水量を増加するための事業認可を取得しました。

現在、各種計画に基づき水源の確保をはじめ浄水場や配水池及び重要給水施設配水管の整備を進めています。

この度、ひらふ第 2 駐車場敷地において配水池の建設を行うこととしております。

地域の皆様に計画の説明を致したく、ご多忙の中お集まりいただきました。」

つぎの 4 ページをお開き願います。

ニセコひらふ地区の水道事業の概要でございます。

青色の線で囲んだエリアがニセコひらふ地区、山田地区、樺山を含めた給水区域となっております、水道の使えるエリアです。

黒丸印で示されているのが、現在の水道の施設の位置を示しております、

羊蹄山の登山口のそばに井戸が 4 本ございまして、ここでは、ニセコひらふ地区の水量を増量するために、現在、新比羅夫浄水場を建設中です。

その新比羅夫浄水場に 4 本分全ての井戸の水を集めまして、塩素消毒を行いニセコひらふ地区に供給する予定となっております。

図面赤線で示されているのが、配水管のルートとなっております、現在、平成 3 年に布設した配水管が入っているのですが、容量が不足することになりましたので、新たにもう 1 本配水管を入れ 2 条化する計画となっております。

そして、今回、その水を受け入れる施設の配水池がどうしてもニセコひらふ地区に必要となっております、その建設場所が検討の結果、ひらふ第二駐車場が最適である との結果となっております。

これにつきましては、後程詳しく説明させていただきます。

つぎの 5 ページをお開き願います。

ニセコひらふ地区の施設能力と最大給水量の比較 となっております、

平成 23 年からのニセコひらふ地区の一日の最大給水量の伸びと施設能力の比較をグラフ化したものです。

ピンク色の線が一日最大給水量、黒の線が施設能力です。

一日最大給水量は平成 23 年より右肩上がり年々増加して平成 30 年には施設能力ぎりぎりまで最大給水量が増加しております。

この状況を踏まえまして、水道課では、令和元年に 3 号井戸、更に令和 4 年には 6 号井戸の整備を行いまして施設能力を上げております。

令和 2 年、令和 3 年においてはコロナ禍の影響もあり、給水量は下がりましたが、今シーズンの令和 5 年度は過去最高の一日最大給水量 3,503t/日を記録している状況となっております。

この一日最大給水量ですが、令和 12 年には 6,310t/日まで上昇する予測となっております、町水道課では、令和 6 年度は新比羅夫浄水場を完成させることにより施設能力を現在 3,885t/日から 5,445t/日へ引き上げまして、令和 8 年度には更に新中区配水池を完成させることにより 6,625t/日へ引き上げていく計画としております。

次ページ 6 ページをお開き願います。

水道施設新設にいたる経緯 となっております。

倶知安町の情勢としまして、

- ・ 高度経済成長期にスキー場・リフトの整備が進み、国内有数のスキーエリアとなった
- ・ 2000年代以降のインバウンド取り込みを経て、国際的な観光リゾート地域となった
- ・ 近年の更なるインバウンドの急増を起因とする観光需要の増により急速なインフラ整備が必要となった

以上のことを踏まえまして、

水道事業の課題としましては

- ・ 必要水量が供給可能水量を上回る
- ・ 現有施設ではこれ以上の給水申し込みへの対応が困難
- ・ リゾート開発に対応しうる新水源・配水池・配水管等の建設が急務

という課題に直面している状況となっております。

次のページ7ページをお開き願います。

周辺環境(北海道の自然公園)というタイトルとなっております、

このたび新中区配水池の建設場所のひらふ第二駐車場敷地は ニセコ積丹小樽海岸国定公園の第3種特別地域 に指定されております。

次のページ8ページをお開き願います。

このため、建物を建てる際には、自然公園法で許可基準が定められておりまして

これらの許可基準に準拠した計画・設計・施工をしなくてはなりません。

現在、協議先であります。後志総合振興局環境生活課とは、新中区配水池の建設について協議を行っております。

次のページ9ページをお開き願います。

事業計画(全体像)となっております、

ニセコひらふ地区の水道施設のフロー図を載せております。

フローの中央に新中区配水池を示しております、

水の流れとしましては、各井戸からポンプで取水しまして

新比羅夫浄水場に入り、旧比羅夫浄水場へ送るルートと、新中区配水池へ送るルートの二手に分かれる方式として計画しております。

今回の計画においては、低区配水池を経由せずに新中区配水池に直接 浄水を送り、新中区配水池から既存の配水区域である、低区配水区域、中区配水区域、高区配水区域に給水する計画となっております。

次のページ10ページをお開き願います。

事業計画(新中区配水池の役割)となっております、

この度新たに建設する新中区配水池の役割としましては、大きく3つありまして

1つ目が、中枢施設

2つ目が 給水拠点

3つ目が調整施設 となっております。

中枢施設の役割としましては、

・浄水場からの水の受け入れと ニセコひらふ地区全域の給水を担う 重要な施設 となります。

給水拠点の役割としましては

・ 災害時における給水拠点となることから、
・自家発電機を備え、非常時においても稼働し、・レベル2地震動への耐震性能を確保することとしております。

※レベル2地震動とは、当該建築物の敷地において、過去及び将来にわたって最強と考えられる地震動となっておりまして、（震度6強から震度7程度）を意味しております。

調整施設の役割としましては

・ 当地区特有であります、季節及び時間帯により変動する水需要量にも適応し安定した給水させる こととなります。

次のページ11 ページをお開き願います。

施設位置（土地の選定）となっておりまして、

新中区配水池の建設位置をひらふ第二駐車場を最適とした経緯の説明となっております。

まず、大前提としましては、

候補地の選定にあたっては、既存施設との接続を考慮し、比羅夫送配水調整池～高区配水池間の送配水管ルート付近から選定することが合理的であることから下図の①～⑬の13候補地を選定しております。

ちょっと図面が見づらいのですが、水色の線が既設の送配水管ルートです。

配水池を作る場合は、既存の送配水管ルート付近から選ぶのが合理的であるとの理由から、その付近で候補地を13箇所選定し検討をしております。

13候補地の中から、災害リスク、敷地面積、地盤高、環境リスクなどを総合的に勘案した結果、ひらふ第二駐車場が最適地であるとの結果となりまして、令和2年度に基本設計を策定しております。

その他の候補地につきましては、災害リスク・環境リスク・他の整備計画等があり配水池の建設場所には適さない結果となっております。

次のページ12ページをお開き願います。

施設位置(施設配置)となっておりまして、第2駐車場の航空写真と配置図を載せてあります。

第2駐車場の道路側に新中区配水池を配置する計画としており、その理由等につきましては後程説明させていただきます。

次のページ13 ページをお開き願います。

新中区配水池の完成イメージです。

道路側から見たイメージとなります。

フェンスで外周を囲むことも検討しましたが、配水池の水槽の外周のみをフェンスで囲う

こととしました。

正面にはフラワーポットを配置する予定です。

建物の屋根形状・色彩・外壁の色彩については、国定公園となっており、景観に配慮した設計としております。

次のページ 14 ページお願いいたします。

配置図となっております。

赤色の囲みが建屋です。

建屋の寸法は正面の長さが 23.8m、奥行きが 10.2m となっております。

ピンク色の囲みはフェンスの範囲です。

次の 15 ページお願いいたします。

配水池の建屋の立面図になります。配水池建屋の大きさですが道路側からみて 23.8m になります。奥行きが 16.4m、建屋の高さについては 6.3m となります。

次のページ 16 ページお願いいたします。

こちらは配水池の建屋と地下の配水池の水槽部分の立面図になります。

水槽部分は長さ 32m、深さ 4.8m です。

次のページ 17 ページお願いいたします。

フェンス詳細図となります。

赤線の位置にセキュリティ対策として、フェンスを設置することとしております。

フェンスの高さは 2m としており、景観に配慮した木目調ラッピングを予定しております。

次のページ 18 ページお願いいたします。

新中区配水池の諸元を一覧として載せております。

施設構造としては RC 構造、有効容量 2,110 立方メートル、池数は 2 池となっております。

次のページ 19 ページお願いいたします。

施設配置上のメリット、デメリットとなっております、

令和 2 年 7 月の基本設計時は第 2 駐車場の奥側での配置の場合と

今回、令和 6 年 1 月の実施設計の駐車場の道路側に配置のメリット・デメリットを比較して記載しております。

まずは、共通のメリットでございますが、第 2 駐車場敷地は、他の候補地に比べ土砂災害リスクが低い 敷地が広く、工事の施工性が良い

当地は地形上、配水区域の高台に位置しており、配水システムとして効率が良く、既設水道施設との接続も容易

という共通のメリットがあります。

そのうえで、基本設計時の奥側に配置した場合のメリットとしては、車の出入りが容易 という点が挙げられます。

また、デメリットとしては、

- ・道路から施設までの配管延長が長く不経済。

- ・管理用道路が必要(6m 幅で延長約 100m)となり、土地の有効活用の観点からは不利。
- ・旗竿地の形態となるため災害時の応急給水活動には不利。
- ・除雪等維持管理が難しくなる という点が挙げられます。

次に、今回の実施設計時の手前側に配置した場合のメリットについてですが、道路に近いことから、災害時の応急給水活動に有利
管理用通路が不要となるなど、土地の有効活用の観点からは有利
除雪等維持管理が容易
という点が挙げられます。

またデメリットとしては、道路に面していることから特に景観に配慮が必要。
という点が挙げられます。

次の 20 ページは令和 2 年 7 月の基本設計時の配置図となります。

このときは駐車場の奥側に建設する予定としておりました。

次の 21 ページは今回の実施設計の配置となります。

奥側に配置した場合に比べて水道施設としての利点が多く、一刻を争う災害時の給水活動には道路近いことが最大の利点であることから、どうしても道路側に建設したいところです。

次の 22 ページお願いいたします。

工事についてのスケジュール案となっておりまして、
新中区配水池の工事としては、土木建築の建設工事と機械電気のプラント工事の 2 本立て
で計画しております。

工程上 3 年計画となっております。

令和 6 年は 土工と地業をメインに考えており、2 年目は躯体の建設、3 年目は主に外構工
事を予定しております。

機械電気のプラント工事においても、特殊機器が多く時間を要する見込みです。

完成は令和 8 年の 12 月を予定しております。

次の 23 ページをお願いいたします。

駐車場の使用について となっておりましてご説明させていただきますと、

令和 6 年度から令和 8 年度の工事期間(冬期を除く)は、駐車場は全面使用できません。

冬は工事を行いませんので駐車場は使用できます。ただ工事箇所のスペースは赤の斜線部
のところですが、駐車は出来ません。奥は大丈夫です。

工事完成後の令和 8 年度以降は、図面青色の部分においては現況のままですので、駐車場と
して使用できます。

以上新中区配水池の工事の説明は以上となります。ご協力のほどよろしくお願いいたしま
す。

4 質疑応答

別紙 令和 6 年 3 月 26 日開催 新中区配水池新設工事説明会 質疑応答及び補足回答
に掲載

5 閉 会